



**バイオマスごみ袋の
見直し**
鈴木 めぐみ（政新クラブ）



問／市指定ごみ袋について、他のバイオマス素材への転換や販売価格を見直す考えはないか。

答／バイオマスプラスチックの原材料として現時点では米が適当と考えているが、新技術などの情報収集に努める。販売価格の見直しは、定期的に検討していく必要があると認識している。

問／バイオマスごみ袋の使用による二酸化炭素排出量の削減効果はどの程度か。

答／令和4年度の削減効果は、約8万8千kg CO₂で、効果のある手法だと考える。

子育てジョイカードの拡充

問／対象世帯を拡充し、地域の宝である子どもの育成を地域社会で支えることが必要では。

答／子育て家庭へ向け様々な支援施策を推進している。本事業は協賛企業の善意により展開しており、現行の制度継続が適当だと考える。

上越市民の歌「このふるさとを」の普及

問／市民の歌の定着化に向けた活動は。

答／近年では、各種式典やイベント時のBGMとして活用しているほか、市役所木田庁舎の電話の保留音に設定し、普及に向けた取り組みを進めている。

問／防災行政無線により定時放送してはどうか。

答／浦川原区、大島区、中郷区、名立区において毎日午前11時30分から放送している。



**市長の震災対応、
高みの見物とは驚き！**
宮越 馨（無所属）



問／「日本一住みよいまち」「子育て日本一」「雁木通りを世界遺産に」は見かけ倒しのパフォーマンスだ。実効性なく看板を下ろしたらどうか。

答／それぞれに取り組みを進めており看板は下ろさない。「雁木通りを世界遺産に」も将来を見据えて取り組んでいく。

問／副市長の給料を10%カットして業務を遂行しるとは理解に苦しむ。実効性はあったのか。

答／副市長も納得し取り組んだので問題はない。

問／地震災害対策本部長であり召集者である市長は、地震発生直後の本部会議出席が絶対条件である。なぜ自宅待機で登庁しなかったのか。

答／道路の通行止めや津波警報が発表されていたことから総合的に判断して自宅にいた。

問／午後5時過ぎには津波も収まり道路の通行も支障なく、谷浜地区の住民も自宅へ戻ったと聞いている。登庁しようと思えばできたはずだ。自宅を何をしていたのか。当日の遅い時間には登庁できたはずだ。

答／自宅で飲酒していた。津波警報解除時には就寝しており翌日午前11時に登庁した。

問／津波警報が出て避難する市民で大混乱の中、市職員は避難対応に励んでいた。なぜ市長は登庁して陣頭指揮をとらなかつたのか。飲酒していたとしても公用車で登庁できたはずだ。

答／津波警報発表中は危険と判断し家にいた。



**消防団の待機室
設置すべき**
飯塚 義隆（久比岐野）



問／消防団は地域防災力の要であり、災害時など長時間の活動時は待機が必要となる。器具置場新設の際には待機室を設けるべきでないか。

答／消防団をはじめ関係者で組織する上越市消防団適正配置検討委員会でもまとめた報告書では、器具置場近くに町内会館や公共施設等がある場合はそこを待機室として利活用し、ない場合には器具置場内に設けることにしている。

問／災害時、町内会館は避難者や地域防災の拠点施設として使用される。また、消防活動で着衣が濡れた団員が離れた施設の待機室へ移動せざるを得ないこともある。隣接する妙高市や糸魚川市では器具置場を2階建てにして2階に待機室を併設している。当市はこれでもいいのか。

答／現実に即したかたちで修正していきたい。

都市計画道路黒井藤野新田線の先行開通は？
問／県も市も共に厳しい財政環境にある中、県施工区間と市施工区間の同時開通を目指すとしているが、県区間の事業期間が延伸する場合、市区間を先行して開通する考えはないか。

答／現時点では同時供用を目指しているが、県区間の事業期間が延伸する場合には、市区間において、先行供用による効果や周辺交通への影響等を検討した上で供用の時期について判断していきたい。